

## 夏の嵐 (1954)

LIVIA [米]

SENSO

WANTON CONTESSA [再]

メディア 映画  
ジャンル ドラマ 戦争  
製作国 イタリア  
色彩 Color  
時間 119分  
初公開日 1955/10/08  
公開情報 イタリアフィルム=NCC  
リバイバル 1982/12 [ヘラルド]

## 【解説】

だって原題が「官能」（19世紀末のカミッロ・ボイトの短編小説が原作）だもの、もう、その通り。オペラ座の舞台から始まる、この絢爛たる恋の絵巻は、後期のヴィスコンティの耽美趣味が既に顔をだしながらも、やはりネオ・レオリズムで鍛えた直截な描写力が生きていて、全くヴァイタルなメロドラマになっている。

1866年、オーストリア軍占領下のヴェネツィアで観劇中の軍の将校と抗戦運動の指導者の侯爵との間に決闘騒ぎが起り、それを諫めに入った伯爵夫人は、従弟である侯爵を流刑にされながらも、その美貌の将校に狂おしく恋をする。再び戦争が勃発し、密入国した侯爵は従姉のもとを訪ね軍資金の保管を依頼するが、夫人はその金を、将校に軍籍離脱の賄賂のためにと渡してしまう。祖国は敗れ、ヴェローナにいる彼の元に馬車を急がせた夫人の見たものは……。

薄汚れた姿で恋人を探して兵舎を訪ね回る夫人=A・ヴァリの激情は、トリュフォーの「アデルの恋の物語」のI・アジャーニの比ではない。G・R・アルドと彼の死で途中交代したR・クラスカーのカメラのゴージャスさ、全篇に響き渡るブルックナーの第七番。これぞイタリア映画というボリュームで観る者を圧倒する、ヴィスコンティの最高傑作。

## 【クレジット】

監督	ルキノ・ヴィスコンティ	Luchino Visconti
製作	ドメニコ・フォルジェス・ダヴァンザーティ	Domenico Forges Davanzati
原作	カミッロ・ボイト	Camillo Boito
脚本	スーゾ・チェッキ・ダミーコ ルキノ・ヴィスコンティ	Suso Cecchi d'Amico Luchino Visconti
撮影	G・R・アルド ロバート・クラスカー	G. R. Aldo Robert Krasker
編集	マリオ・セランドレイ	Mario Serandrei
出演	アリダ・ヴァリ	Alida Valli リヴィア・セルピエー リ伯爵夫人
	ファーリー・グレンジャー	Farley Granger フランツ・マーラー 中尉
	マッシモ・ジロッティ	Massimo Girotti ロベルト・ウッソー 二侯爵
	ハインツ・モーグ	Heinz Moog セルピエーリ伯爵
	リナ・モレリ	Rina Morelli ラウラ

クリスチャン・マルカン  
セルジオ・ファントーニ  
マルチェラ・マリアーニ

Christian Marquand  
Sergio Fantoni  
Marcella Mariani

ボヘミア士官  
ルカ  
クララ